

建設系高校生による「建設業に対するイメージアップ」作文の部

最優秀賞

「夢見る現場監督(ドボジョ)」

愛知県立稻沢高等学校 農業土木科 1年
野村晃代

私の目指す職業は「土木女子（ドボジョ）」です。「土木女子（ドボジョ）」って知っていますか。土木女子をスマホで調べると、『土木・建設関連の仕事をしている女性のこと』と書かれています。土木・建設に抱くイメージは長い間、「男性だけ」の職場。私のクラスメイトもほとんどが男性です。今や女性時代、土木女子（ドボジョ）がここ5年間で3%から6倍以上の20%に増え、現在は、「道路などの安全整備に携わり街づくりに貢献したい。」と目標を持った女性技術者が、全国で活躍しています。

そもそも私が土木女子（ドボジョ）を知ったのは、中学校の社会科の授業で、ジェンダーギャップについて学んだ時でした。その授業で、東日本大震災の復旧作業で額に汗を流しながらヘルメットをかぶり、被災者のために一生懸命に働いている土木女子（ドボジョ）の映像を見ました。

さらに、中学生のころ父と「第二環状飛島線の高速道路」の工事現場付近を散歩していた時の出来事でした。ヘルメットをかぶった小柄な女性が、いかつい男性作業員に向かって、大きな声で「○○さんは基礎杭工を、○○さんは土留工を。安全にお願いします。」「今日も一日よろしくお願ひします。」と言っていた光景を目の当たりにした私は、この時「この仕事やってみたい」「この仕事面白そう」と強く思いました。

私は、夢中で土木・建設業について調べました。土木とは、『建設業のうち建築以外のもの』と定義されています。街並みを作る仕事のうち、建物を除いたすべてのことを言います。道路や橋、鉄道、港、河川の堤防、山の法面、ダムなど人々の生活に密接に関わるインフラ領域のありとあらゆるものを作っている業界です。また、建築業と土木業の違いは、造るものの大ささです。山を貫きどこまでも続く道路や鉄道は、ビルや建物に比べてはるかに規模が大きく、また、巨大な船が何隻も入ることのできる港も、どんなビルや建物より大きいものです。もっとも大きなものを造るのが土木業界の仕事です。土木業界の魅力は、人々の生活を豊かにするだけでなく、人々の暮らしを守ることも大きな役割です。河川の

堤防や、山の法面、ダムなどを整備し災害などの自然の驚異から人々の命を守り、安全で快適な暮らしを維持することも大切な役割です。その他にも身近なところでは、水道管の交換や道路の舗装工事などあります。身の回りの工事からスケールの大きい工事まで、様々な土木工事の職域があることを知って、私はますます土木業界の魅力に引き込まれていきました。

私は中学3年生の進路を決めるとき、自分のやりたいことを優先させるか、安定した収入を優先させるかで迷っていました。そんな時、母が「人生は一度きり。自分のやりたいこと、得意なことができる学校、学科を選びなさい。」と言って後押ししてくれました。そして私は、父と散歩の時に出会ったかっこいい女性（現場監督）になる夢を叶えるため、稻沢高等学校の農業土木科に進学を決めました。入学後に不安の多かった高校生活は、厳しい指導もありますが、優しい先生も多く、また面白いクラスメイトとは互いに支え合いながら、毎日切磋琢磨しています。専門科目では、農業土木施工、測量、製図や測量実習、sin・cos・tanなどの難しい用語や苦手な計算も多く苦労する場面もありますが、将来の夢の為に一生懸命勉強しています。

授業の中で、ある建設会社の人事担当の方は、一番大切なのは「コミュニケーション能力だ。」と言われました。さらに、出前授業では、講師の先生から「もし、出来ない仕事を頼まれたらどうしますか。」と質問をされました。みんな答えられずにいたときに先生が元気よく返事をすることそうすると、失敗しても『次は頑張れ』、『ここはこうやるんだ』と先輩が教えてくれるし、助けてくれる。失敗するのが嫌で、仕事から逃げていたら、結局自分自身から逃げてしまうし、感動も起こらない。私はこの講話から何か難しい頼みごとをされた時、笑顔で元気よく返事をして、何でもいいから本気で取り組んでいこうと思いました。

短い高校生活の中で、笑顔で元気よく失敗を恐れず、コミュニケーション能力を磨き私の目指す現場監督（ドボジョ）になれるよう精一杯頑張ります。